

シンポジウム「急性期から在宅医療へ～その現状と課題」では筑波大学教授 大久保一郎先生の司会で、救急医療、診療所、訪問看護、地域連携室、リハビリテーションの立場から、現状と課題、工夫と、求めるべき行政等からの支援について深い議論が繰り広げられました。さらに、公募一般演題は52題、クリティカルパス展示は83件の発表がありました。口演は、クリティカルパス、医療安全、教育・研修、高齢者、薬剤・栄養、感染、DPC、連携医療、リハビリテーションの10セッション、会場は展示会場も含めて5会場で行われ、いずれも活発な議論が行われ、明日の現場の医療に結びつく、価値ある学術集会となりました。ご支援下さった方々、ご参加頂いた皆様に深く御礼申し上げます。

第8回山口支部学術集会

学術集会会長：総合病院社会保険徳山中央病院病院長 林田重昭



会場風景

2009年11月21日(土)、第8回山口支部学術集会を周南市糺町のピピ510において開催し、229名が参加しました。

本学術集会のテーマとして「地域完結型医療の推進」を掲げ、一般演題(口演)8題、(ポスター)12題の他、シンポジウムおよび特別講演を行いました。

シンポジウムでは「当院における地域完結型医療の試み」というテーマで、4題各病院の取組みの事例発表がありました。

また、特別講演として、山口県健康福祉部健康増進課の岡紳爾課長に「生活習慣病における地域医療連携～地域完結型医療をめざして～」という演題で、地域医療連携体制構築の必要性、医療計画の4疾病5事業について、また、山口県における医療計画等についてご講演いただきました。

今回、参加者皆さんが多く学びを得た有意義な学術集会であったと思います。改めて参加者およびご協力していただきました皆様に感謝申し上げます。

(文責：総合病院社会保険徳山中央病院庶務課係長 山本浩志)

分科会等開催案内

2009年度第2回クリティカルパス実践セミナー in 滋賀 テーマ：クリティカルパスの作成とバリエーション分析

クリティカルパスの作成運用を担当する実務者のための研修を下記要領で実施します。本研修においては、作成ソフトを用いたクリティカルパスの作成と主催者側が用意したクリティカルパスについてデータをもとにバリエーション分析を行います。クリティカルパスの作成と見直しに

ついでに理解を深めるとともに、さらに、最新のクリティカルパスについての情報交換を行います。

実務研修の為に定員が限られていますので、お早めにお申込み下さいますようお願いいたします。

- ・日時 2010年2月13日(土)12:30～14日(日)14:30
- ・会場 大津赤十字病院 地域医療研修センター小講堂
(〒520-8511 滋賀県大津市長等1-1-35)

・プログラム

第1日目 2月13日(土)

12:30 受付開始

13:00～13:10 開会

日本医療マネジメント学会理事長 宮崎久義

13:10～13:20 講演Ⅰ「クリティカルパスの基本と作成のポイント」

国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川哲志

13:30～13:40 ワークショップの進め方

京都大原記念病院院長 垣田清人

13:40～16:00 グループワークⅠ

作成ソフトを用いたクリティカルパスの作成

16:10～17:10 発表・討議

17:10～17:30 講演Ⅱ「クリティカルパスの見直しのポイント」

国立病院機構熊本医療センター統括診療部長 野村一俊

17:30 第1日目日程 終了(予定)

第2日目 2月14日(日)

8:45 集合

8:50～9:10 講演Ⅲ「バリエーション分析とクリティカルパスの見直し」

福井総合病院 副院長 勝尾信一

9:10～12:00 グループワークⅡ

バリエーション分析

12:00～13:30 昼食

13:30～14:30 発表・討議

14:30 閉会

〈募集要項〉

○対象 医師、看護師他コメディカルスタッフ
(できるだけ、医師とコメディカルスタッフのペアでご参加ください)

○会費 10,000円(但し、非学会員 18,000円)

○定員 60名

(定員を満了次第締め切らせて頂きますので、お早めにお申し込み下さい)

○受付期間 2009年12月18日(金)～2010年1月15日(金)

○問合せ先 日本医療マネジメント学会事務局

〒860-0806 熊本市花畑町1-1

三井生命熊本ビル3階

TEL:096-359-9099 FAX:096-359-1606

E-mail jhm@space.ocn.ne.jp

URL <http://jhm.umin.jp/index.html>